

第1分科会：問題提起

医療と福祉の実態を知り、医療・社会保障のあり方を考える

～いのちが守られる地域をつくろう～

問題提起

①「実態を知る」②「実態を知ってもらう」、この2点について、とにかく楽しく気軽に取り組んでみたいと考えています。

いま医療や介護の現場で起きていること、現場が右往左往している政策や制度のこと、これからの方向性のこと、どれだけ地域の人に説明できているでしょうか。ひょっとして家族にすら、理解されていないのかもしれない。

それほど今の医療や介護、社会福祉をめぐる制度や政策は大きな転換点を迎えています。大がかりな変更が相次いでいるからです。

ただ、制度や政策の変更点をいち早く理解することにまい進し、そして適応するという仕事のやり方は、そろそろ止めにしたいと思っている人は少なくないのではないのでしょうか。本当にそれで「よい仕事」と言えるのか分からなくなってきました。「よい仕事」をしてきたのに、なぜ以前より仕事が増えたり、過密労働になっているのでしょうか？

マスコミによる多くの世論調査が実施され、その多くで第1位となる世間の関心事は社会保障についてです。医療や介護、社会福祉の事柄についてなのです。にもかかわらず、私たちの仕事は知られているのでしょうか？

まずは自分たちの職場の「実態を知る」ことをはじめませんか？

そして、地域みなさんに「実態を知らせる」ことをやってみませんか？

楽しく気軽に取り組んでみましょう！！